

(案)

動物用医薬品評価書

クロステボル

令和4年（2022年）10月

食品安全委員会動物用医薬品専門調査会

## 目次

	頁
○ 審議の経緯 .....	2
○ 食品安全委員会委員名簿 .....	2
○ 食品安全委員会動物用医薬品専門調査会専門委員名簿 .....	2
I. 有効成分の概要及び安全性に関する知見 .....	3
1. 一般名及び構造 .....	3
2. 用途 .....	3
3. 使用目的 .....	3
4. 提出された毒性試験の概要 .....	3
II. 食品健康影響評価 .....	3
表1 遺伝毒性試験の概要 .....	5
・ 別紙：検査値等略称 .....	6
・ 参照 .....	7

### 〈審議の経緯〉

- 2020年 3月 17日 厚生労働大臣から残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請（厚生労働省発生食 0317 第1号）関係資料の接受
- 2020年 3月 24日 第777回食品安全委員会（要請事項説明）
- 2022年 10月 12日 第256回動物用医薬品専門調査会

### 〈食品安全委員会委員名簿〉

(2021年6月30日まで)

佐藤 洋（委員長）  
山本 茂貴（委員長代理）  
川西 徹  
吉田 緑  
香西 みどり  
堀口 逸子  
吉田 充

(2021年7月1日から)

山本 茂貴（委員長）  
浅野 哲（委員長代理 第一順位）  
川西 徹（委員長代理 第二順位）  
脇 昌子（委員長代理 第三順位）  
香西 みどり  
松永 和紀  
吉田 充

\*：2018年7月2日から

### 〈食品安全委員会動物用医薬品専門調査会専門委員名簿〉

(2021年10月1日から)

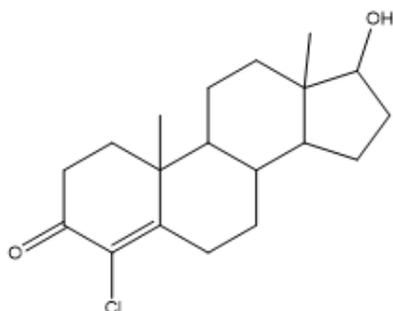
青山 博昭（座長）	桑村 充	内木 綾
石塚 真由美（座長代理）	島田 章則	中西 剛
青木 博史	島田 美樹	宮田 昌明
稲見 圭子	須永 藤子	山本 昌美
伊吹 裕子	寺岡 宏樹	

## I. 有効成分の概要及び安全性に関する知見

### 1. 一般名及び構造

一般名：クロステボル

<構造>



### 2. 用途

動物用医薬品

### 3. 使用目的

ホルモン剤

### 4. 遺伝毒性試験の概要

表1 参照

## II. 食品健康影響評価

食品中に残留する農薬等のポジティブリスト制の導入に際して、現行の食品、添加物等の規格基準（昭和34年12月28日厚生省告示第370号）第1食品の部A食品一般の成分規格の項及びD各条の項において残留基準（参照1）が設定されているクロステボルについて、食品健康影響評価を実施した。

具体的な評価は、「暫定基準が設定された農薬等の食品健康影響評価の実施手順」（平成18年6月29日食品安全委員会決定）の2（2）①の「その他の方法」として、動物用医薬品専門調査会及び肥料・飼料等専門調査会において定めた「暫定基準が設定された動物用医薬品及び飼料添加物に係る食品健康影響評価の考え方について」（令和2年5月18日動物用医薬品専門調査会及び令和2年6月15日肥料・飼料等専門調査会決定。以下「評価の考え方」という。）に基づき、厚生労働省から提出された資料（参照2～6）を用いて行った。

クロステボルは、これまで国内外において評価が行われておらず、ADIの設定が行われていない。

各種遺伝毒性試験（表1）の結果から、クロステボルについて遺伝毒性はないと判断した。

クロステボルのNOAEL等を判断できる毒性試験等は確認することができず、現行のリスク管理の妥当性を判断することはできなかった。

これらのことから、クロステボルは、評価の考え方の（4）に該当する成分であると判断され、本成分について食品健康影響評価は実施できないと判断した。

内木専門委員より

「ポジ剤評価の考え方」の3の(4)に区分すると考えられる成分、とする案に賛成いたします。

表 1 遺伝毒性試験の概要 **伊吹専門委員修正**

試験		対象	用量 <sup>a</sup>	結果	参照
<i>in vitro</i>	復帰突然変異試験	<i>Salmonella typhimurium</i> (TA100、TA1535、TA98、TA1537) <i>Escherichia coli</i> (WP2 <i>uvrA</i> )	5~5,000 µg/ <del>plate</del> mL (±S9)	陰性	参照 3 2007 年
<i>in vitro</i>	染色体異常試験	CHL/IU 細胞	短時間処理 0.9~3.6 mg/mL (±S9)  24 時間処理 0.11~0.45 mg/mL (±S9)	陰性	参照 4 2007 年
<i>in vivo</i>	小核試験	マウス (CD1(ICR))	500~2,000 mg/kg 体重 経口投与 投与 24 時間後に骨髄採取	陰性	参照 5 2009 年

±S9 : 代謝活性系存在及び非存在下

a : 試験はすべて酢酸クロステボル (C<sub>21</sub>H<sub>29</sub>ClO<sub>3</sub> 分子量 364.91) にて実施されており、用量はすべて酢酸クロステボルとしての量。(クロスボル(C<sub>19</sub>H<sub>27</sub>ClO<sub>2</sub> 分子量 322.87))

【事務局より】※赤字の、試験年等は、調査会終了後削除します。

遺伝毒性試験はすべて陰性となっております。発がん性試験は入手できておりません。そのため、本成分の食品健康影響評価は「クロステボルには遺伝毒性はないと判断した。」としております。この記載で問題ないか、ご検討ください。

伊吹専門委員より

この記載でよいと思います。

稲見専門委員より

事務局案の通りです。

<別紙：検査値等略称>

略称等	名称
ADI	許容一日摂取量：Acceptable Daily Intake
NOAEL	無毒性量：No-Observed-Adverse-Effect Level

<参照>

1. 食品、添加物等の規格基準（昭和34年12月28日厚生省告示第370号）
2. 厚生労働省：クロステボルに関する資料
3. 食品薬品安全センター：酢酸クロステボルの細菌を用いる復帰突然変異試験（農林水産省委託試験）2007（非公開）
4. 食品薬品安全センター：酢酸クロステボルのチャイニーズ・ハムスター培養細胞を用いる染色体異常試験（農林水産省委託試験）2007（非公開）
5. ボゾリサーチセンター：酢酸クロステボルのマウスを用いた小核試験（農林水産省委託試験）2009（非公開）
6. 厚生労働省：クロステボルの推定摂取量（令和2年3月17日）